



市民がつくるまちづくり情報誌 コミュニティくさつ

2013年
冬号

(上の写真・大條絳史)



心におてんとさま
街に世間さま



今号のイラスト



イラスト：大村恵

もくじ

- ② コミュニティとマナー 今川晃さん
- ③ おもてなしの心で、街をきれいに！ ふるさと会
- ④⑤ ママさんとつぜん座談会
「ママだからこそ悩んでいます。マナー」
- ⑥ マナーの基本はコミュニケーション 前川仁美さん
- ⑦ 街の交通マナーを守るために 立命館 Rits BIC
- ⑧ 俳句散歩「冬」
- ⑨ 鳥の眼とまちの芽② ハヤブサ
- ⑩⑪ ゆっくり草津街道物語⑩
過去と未来をつなぐ道 洪川・中山道を行く
- ⑫ 熊谷栄三郎の徒然草津⑧ 「カラスといっしょに」



コミュニティとマナー

同志社大学 政策学部長 今川晃さん

人もいるかも知れませんが、少し乱暴な気もします。

私たちが社会で暮らすために、どうしてマナーが必要なのか？これからいくつかの角度でアプローチする前に、同志社大学政策学部長の今川晃さんに「コミュニティとマナー」についてお聞きしました。まずはここからスタートです。

そもそもマナーとは何なのでしょう。よく耳にするだけでなく、口にもする言葉ながら説明するには少し骨が折れます。辞書を引いてみると「①行儀作法②態度・様子」とあります。なんとなく控え目な感じです。

「世の中にはルールや法律があるのだから、マナーなんてなくてもいいのでは…」こう言う

この国のコミュニティ政策は、内閣総理大臣から諮問を受けた1970年の国民生活審議会調査部会の『コミュニティ 生活の場における人間性の回復』の報告依頼、「市民としての自主性と責任を自覚した個人」という前提でコミュニティの活性化を推進してきました。

自治会は世帯単位で仕組みができていますが、その具体的な活動においては個人単位ですし、家庭内でも個人の人格の尊重を前提に円満な家庭が築かれています。

個人としての人格が尊重されるということは、他者からその存在が認められることが前提です。私たちはコミュニティでお互いに気持ち良く生活するためにどうしたらよいかについて、コミュニティの他のメンバーとの関係で考えていかなければならないのです。したがって、挨拶やマナーは自らの存在を他者に認めてもらう為にあると言って、過言ではないでしょう。人間としての最大の満足度は、自らの存在感にあります。

ところで、全国各地から人が集積した江戸でも皆が気持ちよく生活できる

ように、「江戸しぐさ」というマナーが形成されました。また、かつて水俣公害で地域社会が分裂した水俣では、人間相互の理解促進に向けて「もやい直し」という考え方を全国に発信しました。

もちろんコミュニティのルールには、生活形態が多様化した現在の社会に適さないものもあるかもしれません。これも、個々の人格を尊重し、相手の立場に立つて考える「コミュニティが成熟してくれば、改善されていくはず」です。だから、私たちはお互いに気持ち良くコミュニティで生活できるためのマナーを考え、自然にふるまえるように心がけていきたいと思います。

江戸時代の他人に対する暮らしの何気ない行動・思いやり・気配りのこと。

江戸しぐさ

代表的なものに

- 傘かしげ…雨の日に道でお互い濡れないように傘を外側に傾けすれ違うこと。
- 肩ひき…道ですれ違う時に路肩側に肩を寄せて歩くこと。
- 七三の道…道の真ん中ではなく道幅3割を歩き、7割を急いでいる人や他の人のために空けておく歩き方。 など



もやい直し

「もやう」とは船と船をつなぎ合わせることを。「ばらばらになってしまった心



のきずなをもう一度つなぎあわせる」という意味の造語で、水俣病被害者が提唱し始めたとされる。

おもてなしの心で、街をきれいに！



もちろん観光客の

時にはほうきを持つ手を止めて、観光ガイドさんながらに草津のお話をさせてもらうなんて「コマも。本陣を観るだけでなく地元の人とちよつとした会話を楽しむだけで、なおつつ草津の印象が残りますよね。

故郷を大切に作る会

故郷を大切に作る会は活動を始め13年。夏の江州音頭総おどり・春秋の全国故郷まつり・市が行うイベントのお手伝い・まち並み研修ツアーに加え、福島県伊達市の風評被害に対して物産販売をする東日本大震災支援などの活動をしてきました。そして毎月欠かさず続けているのが街の美化活動です。

「マンポ」と呼ばれる商店街のトンネル・旧草津川への石階段と道標・高札場周辺を月に一回清掃しています。草津宿本陣の近くとなるこの辺りは人の行き来が多いだけでなく、他市からもわざわざ草津宿本陣を見に来てくださいます。地元の人だけでなくせつかく草津に来てくれたお客様にも「草津のまちはゴミのない美しいところ」と記憶に残してもらいたい気持ちでいつも清掃しています。

人だって私たちだって「どこから来られたの。どんなまちに住んでいるの」とコミュニケーションを楽しんでいるんですよ。いつも「おもてなしの心」を大切に、「草津人の思いやり」をおみやげに持つて帰ってもらいたいものです。他愛ない会話で私たちも元気をもらっているんですから。



清掃活動を始めたころはまちの人々も「誰かが掃除をやってくれるだろう」とどこか無関心な感じでした。でも続けているうちに地元の人から「いつもありがとう」とお礼を言われたり、観光客の方からも「道路にゴミが捨ててないきれいなまちですね」とほめていただいたりと、そんなささいなことが励みにもなっています。

「街をきれいにする」「コミュニティをつくる」どちらも地道なことですが、長く続けることが大事です。市民全員が「ポイ捨てを止めたその手でゴミ拾い」を実践して街じゅうの道路がきれいになり、子どもたちにも故郷・草津を誇りに思ってもらえればと願っています。

(代表 小見山勝)

拾えば街が好きになる

たばこ会社のCMではないですが、私たち草津市コミュニティ事業団も社会貢

献活動として週に1回、まちづくりセンターのまわりのゴミ拾いをしています。

最近でこそ慣れましたが、始めたころはゴミの量もさることながら、その捨て方やマナーに唖然としたものです。たばこの吸い殻やジュースの空き缶が多いのですが、「ゴミ捨て禁止」の看板の前に堂々と捨ててあるものもあります。

特に気になるのはグレーチングの隙間や植え込みの中などに隠すように捨てられているのが多いことです。捨てる人もどこか後ろめたい気持ちがあるのかもしれませんがね。

街のゴミを拾ったことがある人は、きっと二度と捨てなくなりそうです。「拾えば街が好きになる」皆さんも「ひろ街」いかがですか？



コミュニティくさはHPでもご覧になれます。

ママだからこそ

悩んでいます。マナー

ママだからこそ悩んでいます。マナー

ママさん
とつぜん
座談会



若い人のマナーが気になる

- ・ 自転車で子どもを載せて走っていると、前に若い人がイヤホンで何かを聴きながら自転車をこいでいる。後ろから抜かそうと思えばベルを鳴らしても気配を感じていないようだ。子どもを載せているので無理に抜くのは危険なのでゆっくり後をついていくしかない。若い人の自転車マナーが気になる。(南草津の学生に多い)
- ・ 若い人の自転車が気になる。車に乗っていて、クラクションを鳴らしても気が付かない。夕方や夜に無灯火で走っている。小学生・中学生のころに自転車講習を授業で受けたはずである。自転車道がないところなど日本の道路事情も問題だ。
- ・ 車に乗っていて、後ろから自転車に当たられびっくりしたことがある。若い人が、携帯電話を触りながら自転車に乗っていたとのことだった。



お店や施設、電車の中…人が集まるところに幼い子どもを連れていく。さっきまでお利口さんだった子どもが騒いだり、泣いてしまったり。親である自分に向けられる視線がイタイ。子どもをもつ親なら誰だって経験があるはず。

子どもたちの振る舞いで「最近の若い親ときたら…」と矛先が向いてしまうママたちに「マナーについて思うこと」を聞いてみよう、長寿の郷ロクハ荘で行われたトランポレクスサイズに参加してもらった3人のママに集まってもらい、とつぜん座談会を開きました。

ママだからこそその悩みも見えてきましたよ。

電車の中で…

- ・ 子どもを連れて電車に乗っていると席を代わってくれる人が意外と多い。声をかけてくれる人もいてうれしく思う。子どもを抱っこしているとお年寄りが優先座席を譲ってくれた。40～50歳代の女性が「私も子育てのときはしてもらったことがあるからベビーカーを持ってあげる」と声をかけられたこともある。
- ・ 電車に乗って通勤していた時の思い出。まだお腹が目立たないころ、しんどくてつらい時にバッグに「マタニティマーク」をつけていても気がついてもらえないことがあった。

マタニティ
マーク





「いいこと」と「いけないこと」

- ・スーパーで子どもがカートの上で遊んでいたことがあり、他人から叱られた。その時は他人から言われたことにショックを受けた。
- ・家の中でしていいことと外ではいけないことを言っている。叱るときも「なぜいけないのか」の理由をできるだけ言うようにしている。
- ・図書館へ行くときやお店に入る前に「してはいけないこと」を伝え、家に帰ったときは反省会をする。

君のおかげで私は変わったよ

- ・まちなかで「マタニティマーク」をつけている妊婦さんに気づくようになった。「大変やなあ」とわかり、人に対して優しい気持ちになれる。
- ・まちなかで子どもの声がしても優しい気持ちを持てるようになった。
- ・スーパーでレジのかごを運んでもらったり、子どもに声をかけてくれるなど人の優しさが身にしみるようになった。心からうれしく思うことがある。

これから大きくなる君へ

- ・他人に迷惑をかけないように
- ・声をかけてもらったら自分もうれしい。子どももあいさつがキチンとできる人になってほしい。

どのように見られているのか… まちなかでは過敏になってしまう

- ・スーパーでは「走っちゃダメ、触っちゃダメ」と怒ることがある。どのように見られているのか過敏になっているので、いつもよりよけい厳しく怒ることがある。
- ・公共の場ではかなり抑え気味に自分の子どもを叱る。人前で怒ることができるお母さんはすごいと思う。
- ・ママ友など知っている子どもを注意することはできても、知らない子どもを注意することはなかなかできない。
- ・泣いている子どもを見かけたら声をかけることがある。自分も声をかけてもらったらうれしい。
- ・育児サークルでは「お母さん、あまり怒らないでください」と言われた。怒らない育児よりも、いけないことをした時は人前でも叱ろうと思う。親としての責任だと思う。

パパ、出番ですよ

- ・今日あったことなどは夫にできるだけ話すようにし、子どもから伝えるようにさせている。
- ・子どもを叱ってもらいたいことがなかなか夫に伝わらない。





マナーの基本は コミュニケーション

だと思っんです。

前川 仁美 さん（トランポレクササイズ講師）

トランポリンを使ったエクササイズ「トランポレクササイズ」を通じて、若い親子連れを見守る前川仁美さんにマナーについてお聞きしました。いつも明るいう前川先生は言います。「マナーの基本は「コミュニケーション」だ」と。

人の心遣いを感じ取れる 会話や振る舞いを

お母さんになり子どもを外に連れていくようになりますと、他人から注意されることがあります。子どもの振る舞いや親の自分に対して向けられた言葉にシヨックも受けますが、嬉しいときだってある。私も親になって人の優しさや心遣いが身にしみるようになりました。

公共の場所には色々な人がいて、そこでのマナーが問題になります。「若者が悪い、子どもが悪い」と誰が悪いということなく、一人ひとりが少しずつ周りに気をかけ、目に余るときは誰彼となく声をかけていくようにしたいです。

マナーの悪さが目につくようになったのは、質の良いコミュニケーションが不足しているような気がします。シヨックだけを与えたり、上から下へ抑え込むようなものでなく、人の心遣いを感じ取れるような会話や振る舞い。

それはこれからマナーを身に付けていく子どもたちに対しても同じです。私

はトランポレクササイズ以外に施設を借りてそろばん塾もしているのですが、塾の子どもが施設の廊下を走りまわったり、菓子のゴミをちゃんと捨てなかったことで、施設の職員さんから私が注意を受けました。

そこで子どもたちに「この場所は他にも色々な人たちがこの場所を使っているから気を付けようね。みんなが他の人に迷惑をかけたら塾もできなくなってしまうよ」と話しました。子どもたちは「わかった、気をつける。これからゴミは捨てない」と言ってくれました。

以来、「ゴミを捨てるどころか、捨ててきてくれるようになりました。そんなときは「助かるわ」と笑顔で答えています。施設の職員さんにも子どもたちに話したことを伝え「これからは遠慮なく子どもたちに注意してやってください」とお願いしました。

世間も育ててくれている

未熟な子どもに「走っちゃダメ」とやみくもに「ダメ」のルールだけを言



まずは親子のコミュニケーション トランポレクササイズ

うだけでは伝わらない。でも子どもも立派なひとりの人格を持つ存在として、「どうしてダメなのか」を丁寧に伝えるとちゃんと理解してくれる。理解すると行動にあらわれる。親も子どもに説明するには根気がいるし、伝える言葉も考えて選ばないといいませんが、その基本はやはりコミュニケーションの力なのだと思います。

街の交通マナーを守るアカレンジャー



現在は家の中も外も同じで何をしても良いような風潮です。小さなころから家庭で豊かなコミュニケーション力を育くみながら、マナーを身につけていくこと、そして私たち一人ひとりも社会の一員としてマナーを高めていくためのコミュニケーションをはかっていることが大切なのではないかと感じています。

社会の一員としてのマナー
私の娘は最近アルバイトを始めました。だから今は世間も私の子どもを育ててくれていると思っ
ています。娘もやがて社会に出るとルールやマナーだけでなく、コミュニケーション力が必要になってくるでしょう。

街の交通マナーを守るために!



アカレンジャーが行く

立命館大学 Rits BIC
リッツ バイク

街には色々な人がいます。高齢者の方からは特に大学生の自転車やバイクでの交通マナーが気になるとのこと。そこで交通マナーの啓発にも力を入れる大学生たちをご紹介します。立命館大学BICの「Rits BIC」代表、登尾大地さんにお話を聞きました。

取材に訪れたのは、とあるイベント会場。どうしても登尾さんを見つけれない。

そう、アカレンジャーだったのです。



今日もアカレンジャーがマナーを伝えます

自転車で街を走って気になるのが私たちのような若い世代の交通

マナーを伝えていきます。そして最近力を入れているのが、警察や市役所の皆さんと一緒に
行く交通安全教室。地域や小学校で高齢者の皆さんや小学生の子どもたちに交通ルールやマナーを伝えていきます。

現在のメンバーは約20名の男ばかり。普段は滋賀・京都の観光やおいしい食べ物求めてロード用やクロス用の自転車に乗って回る「ポタリング」や時には4〜5泊の合宿なんかもするサークルです。もちろん自転車に乗る活動の時は車道を1列で走っています（笑）

Rits BICは立命館大学びわこくさつキャンパスの開校時に設立したので、約18年経ちました。



さわやか登尾さん



街には色々な人がいます。道路は車や自転車です。周りに「一人ひとりが気をつけ、周りへの思いやりをもって道路を使ってもらいたい」。そんな気持ちで今日もアカレンジャーに扮して交通ルールとマナーの啓発演劇に取り組んでいます。

マナーと高齢者の自転車運転。特に高齢者の自転車はハラハラする場面もよく見ます。もちろん皆さんではないですが、皆さんの荷物を載せてフラフラ走ったり、夜間の無灯火運転、交差点での斜め横断など「危ないな」と感じるものが少なくありません。

俳句散歩 冬

すったもんだした“近々解散”の結果、国会解散、師走の選挙、新しい政権誕生…と世間は騒々しくなってきました。

今日は世俗を離れて俳句の世界に入って、憂きことを一時忘れましょう。（橋詰辰夫）

憂きことを

海月に語る

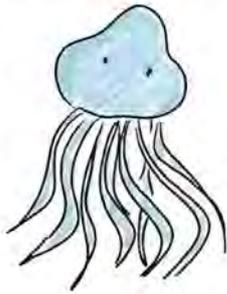
海鼠かな

召波

黒柳召波は与謝蕪村の門人の中でも、俊才と言われた京都出身の俳人です。何時の時代でも、人々は自分の思い通りにならない憂きことがあったようです。

召波はあのだつちが頭で、どつちが尾だか分からない、ましてや、顔も無いように見える海鼠に「わしでも憂きことがぎょうさんありまんねん、なあ海月さん」と言わせています。とつぴも無い発想を俳句に仕上げた召波はやはり俊才です。

ところで、彼の師匠の蕪村は「思うこと言わぬさまなる海鼠かな」と海鼠の俳句を作っています。蕪村の海鼠は見たとおりの無表情で物言わぬ常識的な海鼠です。召波は師匠のこの句を、もちろん知っていたでしょう。「師匠、海鼠だって海月にぼやきを聞いてもらっていますよ」と掲句を読んだとすれば、一層可笑しみが湧いてきます。



余談ですが、海鼠をドジョウと読み替える、何だか前の政局に見えてくるのは、筆者の偏見でしょうか？

湯豆腐や

いのちのはての

うすあかり

万太郎

作者の久保田万太郎は配偶者に恵まれず、バツどころか、バツ三の苦勞をした文人です。その彼は三隅一子（かずこ）にめぐり合、人生最良の時間を赤坂で過ごしていました。



しかし、最愛の一子は昭和37年の師走9日に脳溢血で倒れ、17日に西方へと旅立ちました。その月27日に開催された年忘れの句会で、万太郎は本句を作りました。やつと得た人生の安らぎを突然失った万太郎の心中にあった「いのちのはてのうすあかり」とは、一体何だったのでしょうか？筆者にはそれを解明する力はありません。あるがまま読んで、万太郎の思いを脳裏で追体験するしかありません。

万太郎は一子亡き後、酒を飲み泥酔して寝るような生活を続けていました。彼女が亡くなった翌年の5月に、ある宴席で食べた寿司の赤貝が気管に詰まり、彼女の後を追うように人生を閉じました。万太郎の「いのちのはてのうすあかり」は永久に本人の口から語られることはなくなりました。

材記 取後

おてんとさま

世間さま

「おてんとさま」「世間さま」。若い人には伝わらないかもしれませんが。日本には昔から親だけでなく家族や近所のおじさんおばさんまで、みんなが世間さまとなって子どもを見守り、声をかけながら、みんなで育てる社会がありました。

たとえ、まわりに誰も見てなくても、「おてんとさまが見ている」と一人ひとりが悪さをする心に歯止めをかける社会がありました。

今こそ、一人ひとりが「世間様」となって、周りの人に気配りし、少しお節介でも優しく言葉をかけてあげるコミュニケーションをとることでマナーを高めたいものです。



鳥の眼とまちの芽

第2回 ハヤブサ

文 恩地美和

○スマートにカッコよく

ハヤブサ…全長オス38～45センチ、メス46～51センチ。翼開長84～120センチ。

カラスよりひとまわり小さいこの鳥のイメージは、「速い、強い、カッコいい」というところでしょうか。新幹線や宇宙探査機、光通信にその名がつけられているのは、まさにその特徴をとらえているからでしょう。私の大好きな野鳥のひとつです。

飛ぶ姿は実に優雅、カラスのようにバサバサとは飛びません。翼の先をひらひらと羽ばたかせ、滑空し旋回するスマートな鳥がハヤブサです。

こんなカッコいい鳥が大自然の中に出かけずとも見られるのをご存じでしょうか。そしてその生態がわたしたちの町の暮らしと大きく関わっていることを。



○そりゃあひどい、ハトの糞害

皆さん、特に駅近くの集合住宅にお住まいの方たち、ハトの糞害に悩まされたことはありませんか。私の住んでいるマンションも数年前までは、そりゃあひどいものでした。ベランダのハトどもは、追っても追っても舞い戻ってくる、垢をとる、糞を落とす。いろいろな対策が講じられましたが減る気配なし、本当に困り果てました。

○意外に住みやすい都会

それが、ある時を境にぱったりと姿を見せなくなったのです。そして、エレベーターホールの前に落ちていたハヤブサの羽毛！

なんと、ハトを駆逐したのはハヤブサだったので。おもに鳥類を捕らえて食べる猛禽類のハヤブサにとって都会は意外に住みやすいところのようです。自然界では、海岸や河川沿いの断崖に住むのですが、高層マンションが断崖の代わりとなり、そのうえ、エサとなるハトには事欠かない。

最初の2～3年は冬季だけの訪れでしたが、今年は初夏にも観察しました。もしかしたらどこかで繁殖しているのかも…と考えるだけで心が躍ります。

私はここ数年、同一個体を観察していますが、はじめ幼鳥の特徴だった、胸の縦斑が成鳥の横斑に代わりました。「大人になったのね～」とうれしく感じています。

ハヤブサさま、ハトを追い払ってくれてありがとう。ハトはハヤブサに怯いて集合場所を変えただけでも知れませんが、マンション住民には大きなメリット。糞害から解放され、大好きなハヤブサに会える私には二重の喜び。これからもずっと見守っていきたくと思っています。

絵と字
中村明雄

作法あり

道の具えに



第18回

過去と未来を つなぐ道

～渋川・中山道を行く～

ゆっくり草津 街道物語

草津の玄関口、草津駅。ビルや高層マンションが次々と建つなど目まぐるしい変化をみせるこの辺りは今日も人や車でにぎわいます。街道のおもかげを感じることができるのか…若干の不安とともに、今回の草津の記憶を探す旅は西大路にある「まちづくりセンター」を出発です。

賑わいは今も昔も

買い物客であふれるエイスクエア。この場所に昔、競馬場があったことをご存知ですか。昭和6年(1931年)に開設された関西初の公営競馬場である草津競馬場です。一週およそ1km、2万人収容できるという競馬場では、多い日には12レース、10〜15頭の馬が走りぬけました。詰めかける競馬ファンのため臨時列車が増発される人気だったとか。人気を博した草津競馬も戦争の激しさが増すにつれ寂れてしまい、昭和23年に幕を閉じます。残った跡地は綾羽工業草津工場、そして現在のエイスクエアと大きく様変わりしています。

草津郵便局は元から渋川にあったのではなく、日本の近代郵便制度の



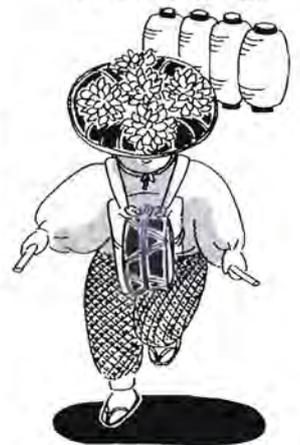
創始者である前島密の片腕だった山内家(現在の草津3丁目) あたりにあったと言われています。郵便局の片隅には葉書の木「タラヨウ」が植えられています。タラヨウの葉の裏に文字を書いて送ることもできます。

郵便局から北へ、渋川小学校方面へと歩きます。大きくカーブする道の角に石碑を見つけました。昭和25年に草津の農業試験場ができたことや滋賀県立農業短期大学が開学したことが刻まれています。昭和31年には県立短期大学農業科となり、40年には農業総合展示会が開かれました。トラクターや耕運機など最新の農業機械の展示など、これからの農業技術への関心は高く、「3日間で1万人の見物人」と当時の新聞記事は伝えます。

農業の移り変わりとともに平成8年に閉校、40年の歴史に幕が閉じられました。目印だったポプラ並木・時計がはめ込まれた校舎やグラウンドの跡地はこれから住宅地へと変わります。この工事の際に行われた発掘調査では古墳時代の土師器・須恵器・溝の址が出土しました。中沢遺跡です。

渋川・風景の記憶

県立短大跡地から中山道に向かうため



JRの線路の下をくぐります。このトンネルは以前、屈んで通らなければいけない低いレンガのアーチ型のものでした。今は天井も高く、クリーム色の明るい内壁で通行しやすくなりました。安全で便利になったトンネルを通りながらも、またひとつ趣のある風景がなくなった寂しさもどこか感じてしまいます。

トンネルをくぐると中山道、すぐ横は中村畳店です。作業場の隣り、ギャラリ「灯心草舎」でちよつと休憩。灯心草は畳の材料となるイグサのことで、芯は和ローソクに使われます。昭和30年代の渋川での人々の暮らしが描かれた「風景の記憶絵」が展示され、懐かしい日常の様子に思わず話が弾みます。

灯心草舎から高架をくぐり中山道を草津駅に向かって歩くと、うっそうとした木々と石垣が続く伊砂砂神社に着きます。伊砂砂神社は5人の神々のうち3人の頭文字から神社の



伊砂砂神社のたたずまい

名前が付けられたといわれます。毎年9月13日の灯明祭には雨乞いのお礼として、夜に「渋川花踊り」が奉納されます。室町時代に始まった風流踊の流れをくむ太鼓踊りは音頭取り・太鼓打ち・踊り子などが口伝の歌を歌い、飛び上りながら境内を輪になって踊ります。

境内の奥にある高い蔵には曳山が保存されています。木々が生い茂り、今となっては開かずの扉となってしまうましたが、大正8年の450年大祭では行列で曳山を引っ張った記録が残っています。誰かが寄進したのか、いつもは学校で見かける二宮金次郎の像を境内で見つけました。な

ぜ神社に？それは分かりませんが、ここにきたらぜひ探してみてください。神社の脇を流れる伊佐々川は渋川の人々の暮らしとつながりが深かった川です。昭和30年代までは渋川のあちらこちらで大きな水車が回り、米を搗いていた情景も今は昔です。

気づいてください中山道

さらに中山道を駅に向かって歩くと右手にお寺が見えてきます。光明寺です。渋川には以前4つのお寺があり、現在は行圓寺・仏乗寺・光明寺が残ります。鎌倉時代に創建された光明寺は渋川でも一番大きな寺で「渋川御坊」といわれました。親鸞聖人が都に上る際に立ち寄られたこと、運如上人がたびたび寄られ野洲・栗太24か寺のひとつとされた由緒があります。屋根瓦の曲線がなんとも美しい。

少し線路に寄るように路地を中に入ると粟津提灯店があります。浅草の雷門の提灯もつくられたこともあるという技術や提灯の大きさは圧倒されるばかりです。今では作業の様子を見ることが少なくなりましたが「草津にもしっかりと残っています。」

中山道に戻りましょう。この中山道、以前は道の真ん中が盛り上がった

かまぼこ型で、雨が降ると水たまりがあちこちでできる「そろばん道路」でした。美しく舗装され、ずいぶん歩きやすくなった今の道を注意深く見ると気づくことがあります。電柱が道路に飛び出していないのです。渋川に暮らす中山道沿いの住民が敷地内に電柱を入れることに協力した結果、今日の歩きやすい中山道となりました。

さらに駅方面へ歩くと「いこいの広場」と名付けられたポケットパークに出了ました。「やすらぎ」と名付けられた銅像のそばにはベンチ、渋川のシンボルのカメとサギの絵が描かれた陶板が小さな川の脇にあります。住民の地域に対する思いが伝わってくる場所です。また向いにそびえるマンションの1階

には「サロン七助屋」があります。米や肥料などを扱っていたお店「七助屋」のしつらえを今に残すサロンに入ると当時の商店の様子がしのべられます。

街の表情は変わっても…

ここから草津駅のデッキに上がります。見渡せる風景はビルやマンションが目立ち、人が行き交う駅前のにぎやかな日常があります。デパートやマンションが建つ前の写真を見せてもらいました。国鉄のレールセンターがあつた赤レンガの倉庫・何本も敷かれたレールなど蒸気機関車の汽笛の音が今にも聞こえそうな一枚です。

中山道、そして渋川は時代とともに大きくまちの表情を変えました。姿を消した象徴的な建物や趣も多くなります。でも渋川の人たちと少し話すだけで古き良き時代の名残りが感じられるまちです。それは一人ひとりの中に残る情景なのですね。

自ら草津市に編入したことで、通行のために電柱を私有地に入れたこと、伝統が続く花踊りなど渋川らしさが垣間見える街道物語です。秋らしくさわやかな風が中山道を通り過ぎていきます。次回は草津駅から大路を歩きます。



草津駅の近くとは思えない静けさの中山道

熊谷栄三郎の
徒然草津
つれづれくさつ

第8回

カラスといっしょに

熊谷栄三郎

夕日を拝むようになって、この十二月で一年がたつた。近頃ではおそれ多くも戯れに、その日その日の夕映えに点数さえつけるようになった。だから夕日観察という言い方もできようが、内心、拝むという気持ちのほが強いことを自覚している。

そもそもは去年の秋、守山の成人病センター十七階から、ふと西の空に目をやったのがきっかけだった。比叡の背に沈んでいく夕日が、あまりにも美しいあかね空を演出していた。いらい次第に夕日オタクみたいになり、わざわざ見るために外出するようになった。

前回は紹介したが、淡海くさつ通りが伊佐々川を渡る大日大橋にドーム屋根の休憩所がある。いわば私の夕日観測所である。比叡も比良も三上山も、阿星や金勝、湖南の山々も丸見えである。とくに比叡など、だれの山?と聞かれたら、草津の山と答えたくなるほど、北端から南端までよく見える。

「くさつ」では夕日を見る時の立ち位置を一定に決めている。日没時刻や、沈んだ峰の位置も記録する。八月初めなら大比叡の

背後に夕刻六時四十五分ごろ沈む。冬至が近づくと石山とおぼしき付近の山に四時半すぎに沈む。

例えば九十五点をつけた十月二日。赫々とした日輪が比叡連峰の南端を山火事のように燃やしつつ沈み、大津から草津にかけての広大な空が朱に染まった。漂う灰色雲の輪郭部もトキ色に輝いていた。壮絶な夕焼けだった。

散歩中の白髪の婦人が寄ってきて「美しい夕日。なぜか亡くなった主人のことを思い出す」と涙ぐまれた。夕日は宇宙の力のようなものを燃やしていて、それが人の心に優しく働きかけてくるのだと私は思った。

そんなこともあったせいか最近では、夕映えの空に「なむ宇田」と二、三べん唱えてみてから、家路につくこともある。童謡のようにたいてい、カラスといっしょに、である。



編集後記

▼脇目もふらず無我夢中で働いてきた人々が今の世を作ってしまった。その人たちがいろいろな場面で社会に向き合い活躍し始めている。頑張れ! (大條)

▼昨年は不毛で不幸な年でした、今年は復興、復幸の年にしたいものです。(橋詰) ▼何ととっても健康が第一。お正月に体調不良で孫と存分に遊ばず、クヤシイ思いをしたじーじが言うので間違いありません。

(中井) ▼運転中のケータイ、自転車でも横断歩道を歩きながらもケータイ見ている若い人たち。自己責任とは言え、見ても危険一杯ですね。(矢原) ▼冬の街歩きに参加! またちがう雰囲気草津の顔が見られて大満足。でもみなさん足が速い! 足腰鍛えなきゃ。

(大村) ▼子どもにきた友だちからの年賀状を見ると「あけおめ」と書いてありました。時代が変わればあいさつも変わるんだなあ。(荒川) ▼毎日見ているだけに自分の子どもの成長を感じる時って、なかなかないものです。それでもポイントがあることに気づきました。その一つが挨拶。近所の人やお店の人に照れくさそうに「こんにちは」と言っている姿を見て「大きくなったな」と感じたのも今は昔。(茶木)

笑顔でつむぐ草津の未来

来てね!

まちづくりセンター10周年イベント

日時 3月2日(土) 10:00~15:00
場所 草津市立まちづくりセンター
参加費無料(一部有料のコーナーあり)
平井茂彦さん(雨森芳州庵) 講演
パネル展示・体験コーナー・
お菓子コーナーほか



市民編集ボランティア募集!

コミュニティくさつ編集部
(公財)草津市コミュニティ事業団内
〒525-0037
滋賀県草津市西大路町9-6(まちづくりセンター内)
電話 (077) 565-0477
ファックス (077) 562-9340
メール com-com@mx.biwa.ne.jp
URL <http://www.kusatsu.or.jp/>



再生紙使用

~地球にやさしいまちづくり~